

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和3年度第1回高松市国際交流推進協議会
開催日時	令和3年6月29日(火)午前10時～11時30分
開催場所	Web会議（来場者用：高松市防災合同庁舎5階 503会議室）
議 題	(1) 令和2年度国際交流推進事業実施状況について (2) 令和3年度国際交流推進事業について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席者	<委員> 池下委員、石原委員、稲井委員、塩田委員、篠原委員、高城委員、時岡委員、徳田委員、平田委員 <オブザーバー> (公財)高松市国際交流協会常務理事 <市> 創造都市推進局長、文化・観光・スポーツ部長、観光交流課 都市交流室（事務局）
傍聴者	1人（定員 5名程度）
担当課及び連絡先	観光交流課 都市交流室（Tel839-2197）

審議経過及び審議結果

議題(1)について

- ・事務局の説明に対し、下記の意見があった。
 - 招へい英語教師による出前講座の開催について、紙芝居は都市交流室で作成したのか。子どもたちの反応はどうだったか。
 - 紙芝居については、招へい英語教師がスケッチブックにイラストを描き、セント・ピーターズバーグ市やフロリダ州を分かりやすく紹介してくれた。そのほか、絵本の英語と日本語での読み聞かせや運動遊びなどを通して、子どもたちの緊張も徐々にほぐれ、楽しんでくれている。
 - 庁内連絡会議では、どんな課題について話合いや周知がされたのか。
 - 去年は試行的に開催し、それぞれの課で行っている外国人住民に対する対応に

ついでに現状と課題を報告し合ったが、課によって温度差があるように感じた。まずは関係課が集まって話し合う場を作ることができたことに意義があるように思う。今後どんな議題について話し合うかを考えていく。課題によって参加課も広げていく予定である。

○香川県では現在「かがわ多文化共生推進プラン」のガイドラインを作成している。県や市町での情報共有や、県のプランが自治体で活用できるような内容でないといけないと思うが、県との情報共有はできているのか。

●県のプランは参考にしている。そのほか県からの通知については、随時関係課と共有を行うほか、市民に対して情報発信等を行っている。

○プラン策定に当たり、県にもぜひ遠慮せず意見を上げてほしい。我々のような民間にも情報が入ってくれば、より活発に有益な議論ができると思う。

議題(2)について

・事務局の説明に対し、下記の意見があった。

○日仏協会として、昨年度は対面の事業はほとんどできておらず、動画配信やかがわ国際フェスタへの参加を行った。今年こそはボジョレーの会を開催したいと検討しており、昨年同様の活動や情報提供なども行っていく予定である。フランスでもまた新型コロナウイルスへの感染者が増えてきている状態であるが、日本においても、今年開催予定のフランス祭「ラ・セゾン」についてまだ検討されている状況のようである。

○香川大学では、一昨年にトゥール大学と大学間の協定を結び、交流を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中断し、交流の再開について働きかけているところである。ぜひ日仏協会と情報共有し、協力していきたい。

○高松市日中友好協会としても、思うような活動ができていないのが現状である。ただ、秋以降、何らかの活動をしたいと考えている。

○エルバートン市との交流事業は今年も中止となった。今はフェイスブックでOB/OG達の現在の姿を掲載しており、OB/OG達同士の交流を手伝っている。相互派遣について間があいてしまっているため、もう一度交流から始めていく必要があるが、今はOB/OG同士での絆を深めることを模索しているところだ。来年は40周年になるので、それに向けていろいろやっていきたいと考えている。

○セント・ピーターズバーグ市との姉妹都市提携60周年記念イベントは大きなものとなると思うので、予定通りできればいいと思う。大学として何かできることがあれば、声をかけてほしい。

○「トビタテ！留学ジャパン」事業について、大学としては8月以降12月までに2名を派遣する予定としていたが、文科省より、派遣期間の延長が認められたので、時期について学生と相談しているところである。

○現在の外国人住民の人数・国籍は把握しているか。

●令和3年4月末時点では、5,106人。割合としては全体の1.2%ほどで、昨年度と比べて足踏み状態である。国籍別では、中国、ベトナム、フィリピンの順である。

○去年から教育支援員として、外国にルーツがある県内の小中学生への支援を行っている。日本語ができないことで友達ができず、孤独になっている子どもたちを目の当たりにし、これまで国際交流に携わってきた立場として考えさせられる。外国人住民が増えているが、孤立・未就学の子どもたちがいると聞きショックだった。外国人住民支援についても考えていくべきではないか。県が香川県国際交流協会と協力し、日本語支援を行っている人たちへの研修会を実施しているが、参加者には、文部科学省が作成している資料（外国人児童生徒受入の手引き）を知らない方がいる。交際交流に関わる我々も知っておくべきだと思う。

○多文化共生の在り方について、日本では「日本人がどうやって外国人と付き合うか」を多文化共生として捉えがちだが、「日本人・外国人関係なく同じように接する」ことが多文化共生であると考え、市の事業を実施してほしい。

○去年は国際交流を思うようにできない状況だった。そのような中でも、高松市として知恵を絞って事業を実施されたなと感心した。しかし、小学4年生への姉妹友好都市パンフレットの配布について、ある学校では、配られただけで終わったと聞いている。せっかく配るのであれば、先生に姉妹都市について説明してもらおうなど、小学生が知識を得る機会として活用してもらったほうがいいのではないか。

●社会科の授業で活用いただくように配布しているものだが、今後は更に一言添えて配布するようにしたい。

○小中学校と関わる中で、国際交流に対する認識が低いと実感している。国際理解の教育や、国際交流員の学校訪問について最近はあまり実施されていないようだ。学校の先生も国際化されておらず、市がパンフレットを配布してもただ渡すだけで終わってしまうし、外国人生徒についても「日本語ができないから日本語だけできるようにすればいい」という考えでやっている方が多いと感じた。せっかくの機会なので、学校の教員に向けての国際交流の研修などが必要なのではと思う。

○教員も忙しい中、国際交流について時間を割けないのかもしれないが、大事なところだけでもおさえることはできるのではないか。すべての学校に外国人生徒がいるわけではないが、いなくてもそういう観点を持つことは大切だと思う。

○コロナの関係で国際交流が停滞している。オンラインでの交流をもっと広めていけるといいと思う。学生が国際交流を行う上で、費用の問題は避けて通れないところであり、学校の経済的支援もあるがそれだけでは足りず、国際交流したいと考えていても海外に行くことができない学生がいる。そういった経済的に厳しい学生でもオンラインで交流ができればいいと考えているが、その際に、オンラインでコミュニケーションをとるための技術的なスキルや機材の不足などの問題がこれまでであった。しかし、新型コロナウイルスの影響で、オンラインで授業や教師とのコミュニケーションをとるようになり、学生はオンラインで何かをすることへの基本的なリテラシーを身につけることができた。これを利用して、コロナが収束しても、オンライン交流を国際交流の柱の一つにできたらいい。

○留学生は、昨年度から未入国の状態である。穴吹学園では、オンラインで台湾の大学とのアイデアコンテストや、高松北高等学校と留学生が日本文化に触れるような交流会を少人数で実施した。また、高松東高等学校では本校の外国人スタッフと、グローバルとは何かや、文化や考え方の違いについて生徒達に学んでもらう取組を行っている。海外には行けない中でも外国人と話をすることで、高校生に外に目を向けてほしい。今後は留学生との交流も行っていきたい。

○留学生をもっと活用し、国際交流の場を増やしてあげてほしい。県内の小中高校へ留学生を呼び、自国の紹介や子どもと一緒に遊んでもらうことで、子ども

たちの国際理解が深まるのではないかと。子どもの頃からやらなければ、国際交流の心は育っていかないと思う。また、新型コロナウイルスの影響で帰国できない留学生たちは、ストレスを抱えている。しばらく対面の交流機会がなかったが、3月に大学コンソーシアム香川が主催のオンライン留学生交流会に何人かが参加し、久しぶりにいろんな国の人と交流できたことを大変喜んでいて。オンラインを活用することで会ったことがない人と交流ができることを学んだので、コロナが収束した後も勧めていく必要があるのではないかと。思う。

○小中高校からの希望を大学に伝えていただきたい。大学では、留学生を地域に派遣することを重要に思っているため、地域のグローバル化のためにもこういう動きを高松市で作ってもらえたらと思う。高松市国際交流協会にもぜひ協力していきたい。

○来年は瀬戸内国際芸術祭が開催される予定だと思う。高松市にも国内外から外国人が多く来られると思うが、それに向けて準備をすすめる必要があると思う。

○高松市国際交流協会では、姉妹・友好都市等との交流事業が2年連続でできていない。難しい状態ではあるが、できることから進めているので、御協力をお願いしたい。

※ ○委員 ●事務局